

1956

設置の動機

衛生看護学士という新しい名前の学士が来る三月に社会をはじめ出てゆく。その衛生看護学科が昭和二十八年に東大に設けられたのは次の様ないきさつによるのである。

昭和二十七年の夏のことである。大蔵省の当局が節約方針から「本院経営があるから、分院の第二看護学校は要らないはずだ」といいたした。これに対し時の分院長三沢敬義教授（現存在名教授、同院病院長）が、むしろその差展的解消をして、新たに「看護大学」の実質を具えたものを作ろうと唱え、文部当局及び厚生省当局の熱心な支援を得た。

東大「衛生看護学科」とは

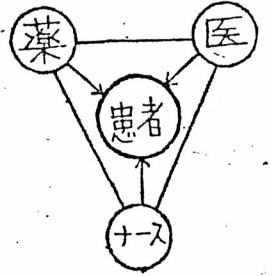
主任 福田 邦三
教授

この提案は東大の内外に賛否の議論を巻き起した。われわれはこれを契機として「医師が如何なる看護婦を望んでいるか」という一般に行われていた考え方も「民衆が自ら意識すると否」とに拘らず、如何なるナースを必要としているか」という客観的な社会的必要性（ワシヤル・ニーズ）とどういふ立脚点を絞ってこの問題を考えた。

目標

「ナースと外国で起っているものは日本で看護婦といっているものどちがい、臨床看護にたずさわる人々だけではない。保健婦、看護教諭なども含めて、健康の保護、管理指導の仕事等を自主的に遂行する役目の人々である。社会的地位や処遇も学校教師と同等としていこうとする。

外国ではフィンランドも含めて多くの公衆衛生先進国で教育と教養の高いナースを養成しているが日本のナース養成の教育は非常におくれている。戦後の改革で高校卒を入学させて三年間の実習中心の看護教育をすることに変わったけれども、これも種々の点で欠点のある教育制度である。民衆の健康と一口にいっても、それは身体生活、精神生活、



社会生活にわたつての健全を意味するのであるから、それを保護し管理し指導し得るためには、高い教養を必要とするのである。外国の民衆と同じ様に日本の民衆もまた当然このような福祉を享受する権利があるのではないだろうか。

結局、医学部の教授会として「日本の民衆の保健のためには現行の職種ほかに、看護婦、保健婦、その他保健活動家（ヘルス・ワーカー）のリーダーを大学教育を以て養成することが

必要である」という結論をたしたのである。

外国の事情

米国では大学出の学士、大学院出の修士の学位をもったナースがよほど以前から病院や社会でサービスしている。そしてその様なナースの下に日本の看護婦、准看護婦などと同じ意味の職種があり、職階組織が出来上っている。病院の患者や社会の民衆に対して健康上の必要をみたす職種の主なものには医師（歯科医師を含めて）、薬剤師、ナースである。それらの人々の間には職務分掌があり、相互提携があるのが正常な安定した姿である。近頃保健チーム（ヘルス・チーム）という語でこれらの職種の提携した姿が表現されている。日本ではこのよ様なナースが充分発達していないので、保健チームの欠陥が、患者の不利または医師の多忙にむすせられている。

われわれより半年おくれで世界保健機構WHOが東地中海地区のナースの発達のためにエジプトのアレキサンドリアにナースの大学を始めた。二年おくれでスコットランドのエジンバラに

も同様のものが出来た。われわれは外国の真似をするというのではなく、日本の民衆のための必要という観点から教育内容や方式を組立てて来た。

一つの大学課程

衛生看護学科は医学部に属するが、医学科とちがい、四年制の大学の普通のコースであつて二〇〇単位習得して卒業する。一般教養は普通の通り、専門課程は二五〇時間で基礎医学、臨床医学、看護学、公衆衛生を授ける。公衆衛生は医科学生以上の時間を費している。医師が治療に傾斜しているというなら、衛生看護学士は保健に傾斜している。

斜しているというなら、衛生看護学士は保健に傾斜している。看護婦、保健婦のリーダーや労働基準法に定めている衛生管理、看護教諭等の最も本格的なもの、その他衛生監視者、衛生教育者というような各種ヘルス・ワーカーの正員として扱われる。と思つて。

獲得資格

衛生管理者、中、高の教科教員（理科、保健）及び看護教諭の免許、国家試験を受けて看護婦、保健婦となる。就職はすべて公費で月給あり、個人開業して謝礼を受けることはない。

今度出る第一期生二十三名中約十名が現職の種々なヘルス・ワーカー、その他は種々に分散して就職、少数は東大に残り研究生活に入る者がある。一例を挙げると放射能災害の予防衛生の「衛生物理学」技術を志望して東大に残つて研究する者一名、未熟児の看護を研究しようというので東京の賛育会病院に就職し同時

に同病院の看護学院の教員になる者一名などがある。とにかく求人が多く、保健政策の盲点を衝いているだけに就職難の無風帯である。社会的処遇は獲得資格もさることながら、むしろ東大出の衛生看護学士だ、ということが評価の基準になつてゐるらしい。

教員組織の編成

八講座で、教授八、助教授八、講師二、助手二の責任者の中に看護婦、保健婦、医療社会事業、栄養士の資格ある女子教員計三名、学生は女子だけで入学定員四〇、理科志望の学生が第二志望でこの科へ来ることは認めない。東大一年入試のときから衛生看護学科学士となる。施設を少し拡充すれば、更に男子の組を探ることが出来るが、それはまた実行していない。（東大医学部生理学教授）